

特集 地域で羽ばたく中小企業診断士5

第2章

支援した創業者や後継者の海外展開を夢見て

福島県 相馬 由寛さん



飯高 麻由子

東京都中小企業診断士協会

福島県福島市を拠点に、創業支援や事業承継支援を行っている相馬由寛さん。その活動は、経営者の支援のみならず、支援機関の支援や地域の体制づくりと多岐にわたる。

相馬さんに、ご自身の活動内容、福島県で活躍する中でのやりがいやコロナ5類移行前後での経営支援について語っていただいた(記事内画像提供:相馬由寛さん)。



相馬 由寛さん

1. 現在の活動状況

相馬さんの活動領域は、①創業支援、②事業承継支援、③海外展開支援の大きく3つの軸で成り立っている。

創業支援では、福島県が運営する福島駅西口インキュベーションルームのインキュベーションマネージャーとして、入居者の支援や創業

間もない経営者の相談業務を行っている。

この業務を核に、県や市、信用保証協会や金融機関が主催する創業支援セミナーの講師を担当するなど、福島県の創業者と支援機関を結ぶ潤滑油的な役割を担っている。

事業承継支援では、独立行政法人中小企業基盤整備機構の中小企業アドバイザーとして、東北6県の支援機関向けの支援業務を行っている。相馬さんは、支援機関職員向けの研修講師のみならず、行政・商工会・金融機関などが一体となり、地域ぐるみで事業承継支援を行える体制づくりの構築にも尽力している。

3つ目の軸である海外展開支援では、2017年に福島海外ビジネス研究所を設立。新型コロナウイルスの影響でここ数年間、活動停止を余儀なくされていたというが、「コロナが5類移行となった今、改めて海外展開支援に注力していきたい」と意欲を高める。



相馬さんの活動領域を表したイラスト

2. 福島県で活動することになった経緯

(1) 福島商工会議所の職員として

青森県出身の相馬さんは、福島大学への進学を機に福島県に移り住んだ。在学中に半年の中国留学も経験し、2001年に大学を卒業。その後、福島商工会議所に就職し、青年部担当時代に、地元経営者が抱く地域に対する熱い思いに幾度となく触れてきた。

「社会人1年目のときから、私が接するお客様は地元の経営者がほとんどでした。特に青年部では、行動力のある若手経営者と接する機会が多く、地域を良くしよう、会社を良くしようと思っている元気な経営者の方たちと一緒に活動していく中で、役に立てる喜びがありました」と当時を振り返る。

(2) 経営学を学び独立の道へ

もっと経営者の役に立てるようになりたい。ほどなくして経営支援を担当することとなった相馬さんは、中小企業診断士と仕事をともにしたことを契機に診断士資格取得を志すようになる。途中、東日本大震災を経験しながらも、2012年に診断士試験に合格。翌年2月に診断士登録を果たした。

時を同じくしてグロービス経営大学院にも通学していた相馬さんは、「もっとリスクを取って経営者に近づきたい。自分も経営者になりたい」という思いを次第に募らせていく。そして、大学院修了も後押しとなり、2015年3月に14年間勤務した福島商工会議所を退所。翌4月に独立し、相馬由寛中小企業診断士事務所を開業した。

3. 福島県で活躍することの面白さ

(1) 福島県の魅力

東北6県の一番南に位置する福島県は、県を南北に縦断する奥羽山脈と阿武隈高地により、中通り・浜通り・会津の3つの地域に分けられる。



相馬さんが支援した靴店の若手後継者

県庁所在地である福島市や商業の中心地である郡山市が位置する中通り、太平洋沿いに位置し、ロボット研究なども盛んな浜通り、降雪量が多く、鶴ヶ城や白虎隊など歴史情緒豊かな会津地方といったように、それぞれの地域で特色が異なる。

農作物では、桃（全国2位）、日本なし（同4位）といった果物の収穫量が全国に比べて多く（出所：農林水産省、令和4年産 果樹生産出荷統計）、水産物では、ひらめの漁獲量が全国3位となっている（出所：農林水産省、令和3年漁業・養殖業生産統計）。

また、県内で作られた日本酒は評価が高く、独立行政法人酒類総合研究所と日本酒造組合中央会が開催する全国新酒鑑評会において金賞を多数受賞している。ほかにも、会津塗や赤べこといった伝統的工芸品などもある。

相馬さんは、「農業や農作物に関係する創業者がいるのは福島県の特徴」と話す。相馬さんは福島県が主催する「ふくしま6次化創業塾」（福島県で6次産業化による起業や事業拡大を検討中の方を対象とした講座）の講師も担当しており、果物や花の栽培に関する創業の相談も受けている。

(2) 地域活動のやりがい

相馬さんは、「中小企業診断士が力を発揮できる場は都心部よりも地域にある」と言う。

「都心部と比べ、地域の経営者は少なく、支援者も多くはないため、中小企業診断士が地元の経営者や支援機関の方々と一緒に、地域を盛り上げていく主役になりやすいです。長い時間をかけて地域に深くかかわっていかなくてはならない難しさはあるかもしれませんが、その分、地域にとって貴重な存在になれるのが地域で活動する魅力です」

さらに「地域では1店舗がなくなったときの影響が大きいので、中小企業診断士の支援が地域に与える影響力も大きい」と続ける。

「そこでしか手に入らないご当地商品を扱う企業などの支援は、地域でしか味わえない魅力ではないかと思います。地域に密着し、その地域ならではの企業の支援に携わることが地域で活動するやりがいです」

4. 新型コロナウイルスと経営支援

(1) コロナ禍での経営支援

新型コロナウイルスの蔓延。それは、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、県内企業が盛り上がりつつしている最中の出来事だった。福島県を皮切りに開幕する聖火リレー、福島県出身の作曲家・古関裕而がモデルとなったNHK連続テレビ小説「エール」。「福島」に注目が集まり、観光誘致や経済活況の期待が高まっていたが、事態は一変した。

相馬さんが支援していた企業も打撃を受けた。その1つが、高齢者向けの買い物サポートを行っている企業だ。高齢者施設や介護福祉施設を訪問し、入居者向けに洋服の販売や出張美容を行っている同社は、新型コロナウイルス蔓延防止による面会謝絶が相次ぎ、売上が大幅に落ち込んだ。各種給付金や助成金など、活用できる制度はすべて活用したが、売上が厳しい状況が続いた。

そこで、「攻め」の施策として相馬さんがサポートしたのが、コロナ禍で急速に普及したオンラインやECを活用した販売戦略だった。高齢者施設と事務所をWebでつないで、画

面越しに接客を行い、洋服を販売する。コロナ禍の苦境を乗り越えるべく中小企業が行ったこの新たな取組みは、新聞やTVなど多くのマスコミに取り上げられた。その結果、それまで取引がなかった高齢者施設などからの問い合わせが来るようになったという。

相馬さんは、「コロナ禍でできたつながりが今に生きてくる」と語る。オンライン販売を通してつながった取引先から訪問販売の依頼が来るといったように、コロナ禍での取組みが5類移行後の本格的な事業再開への備えになっているというのだ。実際、東北と首都圏が販売エリアであった同社は、コロナ5類移行となった現在では、九州まで販路を拡大している。

(2) コロナ5類移行後の経営支援

「コロナ5類移行後は、創業に関する相談が増えてきている」と語る相馬さん。コロナ禍で将来を見つめ直した人が創業に挑戦したり、アフターコロナの盛り上がりで創業を考えたりする人が増えてきているのだという。

相馬さんが講師を務めた地元金融機関の創業支援セミナーも、15名の定員に対し30名近くの受講生が集まるほどの活況ぶりだ。その半数は女性で、カフェやトリミングサロンといったスモールビジネスを検討している創業者が多いという。

セミナーでは、創業に必要な手続きやマーケティング戦略などについて相馬さんが講義を行う一方、最終回では実際に創業した経営者を呼び、やりがいや苦勞した話などを語ってもらっているという。1コマ90分の講義は、終了後も受講生が残って談話をしていくことが多く、人脈形成の場にもなっている。

相馬さんは、セミナー受講生からの個別相談にも応じている。

「セミナーに参加いただいた方の約2割は、その後、私のところに個別相談に来られます。ありがたいことに、セミナーだけで終わりではなく、事業計画作成などの創業支援のサイクルにひとつとおりかわらせてもらっている

ことで、福島県の創業者の方との接点が増え続けています」と語る。

5. 今後の展望

(1) 「学び」の機会を増やす

これまで1,000人以上の相談に応じてきたという相馬さんに営業の秘訣を伺ったところ、「学びが1番の営業です」と語ってくれた。

「営業したことはほとんどなくて、私のお客様は、一緒に仕事をした人や勉強をした人からの紹介が大部分です。お金を払って学びに行き、スキルアップにつながり、そこからネットワークもできる。そのネットワークが仕事につながって、学んだ分を回収できてしまうのです」と笑顔で語る。

コロナ禍の影響で学びの機会が減ってしまったという相馬さん。「今後は学びの機会を増やし、ネットワークを広げていきたい」と意気込みを見せる。

(2) 海外展開支援の再開

もう1つ、相馬さんが長期スパンで描いている夢が海外展開支援の本格化だ。

「私が支援した創業者や後継者と一緒に、海外展開を行うのが夢です。漆器や糺といった福島県の名産品を海外に販売に行ったり、福島県に来た外国人観光客向けに販売したり。そういったサポートを、今まで支援してきた経営者の方たちの売上拡大のステージと



中国の展示会に出展したときの様子（左端が相馬さん）

して行っていきたいと考えています」

2024年4月末現在、福島空港からは台湾へのチャーター便が運行している。中国語が堪能な相馬さんは、自身の強みを生かし、まずは台湾の販路開拓に力を入れていきたいと考えている。

(3) 福島県で活動したい中小企業診断士へ

「住めば住むほど福島のが好きになっていく」と語る相馬さん。「福島県で多くの経営者の方々との良い出会いがあり、その方たちの役に立てることが喜び」と嬉しそうに話す。

そして、地域で活動するために特に大切にしているのが「人とのつながり」だ。

「1件1件、引き受けた仕事をおろそかにせず、目の前のことを着実にこなし、信頼を勝ち取ることが地域においては重要です」

商工会議所の職員として数多くの創業者を支援し、自らも経営者となり、さらなる創業支援をすべく独立開業した相馬さん。経営者の気持ちも、支援機関の気持ちもわかることが、地域における活躍の秘訣と感じた。

相馬 由寛

(そうま よしひろ)

大学卒業後、福島商工会議所にて街づくり、経営支援業務を14年間経験した後、独立。2013年中小企業診断士登録。福島駅西口インキュベートルームインキュベーションマネージャー、独立行政法人中小企業基盤整備機構東北本部中小企業アドバイザー。



飯高 麻由子

(いいだか まゆこ)

大学卒業後、金融機関に勤務。現在は顧客の遺言書作成や遺産整理のサポートなど相続関連業務に従事。2022年中小企業診断士登録。1級ファイナンシャル・プランニング技能士。

